

鳥取県内水面漁場計画第五種共同漁業権に係る増殖指針

鳥取県内水面漁場計画に定める第五種共同漁業権の免許を受けた者(以下「漁業権者」という。)が漁業法(以下「法」という。)第168条の規定に基づき、当該内水面において水産動植物の増殖を行う際の当該内水面漁場における水産動植物の種類に応じた増殖方法、増殖規模等は次のとおりとし、漁業権免許の可否を判断する際の基準とする。

なお、漁業権取得後は、漁業権者は、毎年度、鳥取県内水面漁場管理委員会が公示する増殖目標量を達成するよう増殖を実施すること。

また、産卵場造成、親魚放流の導入、継続実施に当たっては、「溪流魚の増やし方～放流と自然繁殖を上手に使いこなす～」(平成25年3月水産庁)、「アユの人工産卵床のつくり方」「溪流魚の人工産卵場のつくり方」、「コイ・フナの人工産卵床のつくり方」(以上、水産庁・独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所)等を参考とするほか、県栽培漁業センター等専門機関の指導等を受けて実施するよう努める。

1 増殖方法

(1) あゆ

種苗放流を基本とするが、増殖量の一部を「156尾/㎡」により産卵場造成により換えることができる。

汲み上げ放流については、下限に届かない場合のみ含めることとする。

(2) 溪流魚

(やまめ(さくらますを含む。)、いわな、あまご(さつきますを含む。)、にじます)

種苗放流を基本とするが、増殖量の一部を産卵場造成「45尾/㎡」、親魚放流「28尾/メス1尾」(※1)により換えることができる。

なお、繁殖保護のため、禁漁とする支流の設定や輪番禁漁等も増殖に有効(※2)であるが、現時点ではその効果は対象河川により大きく異なることが想定されることから、今後、その効果が定量化された場合において、増殖量の一部に換えることも検討する。

※1 産卵期に産卵場へ親魚(メス:イワナ全長25cm、ヤマメ全長20cm程度)を放流するものを対象とする。

※2 自然繁殖がなされている支流を禁漁とすることで禁漁区で育った天然・野生の溪流魚の稚魚が下流の入漁区へしみ出す効果がある。遊漁規則への規定や看板設置、漁場監視活動と合わせて実施する。繁殖環境が整い管理が行き届いている漁場であれば、キャッチ&リリース区でも効果がみられる事例もある。

(3) こい

種苗放流を基本とするが、コイヘルペスウイルス病のまん延防止対策として放流を控える。

(4) うなぎ

種苗放流を基本とする。

(5) ふな

種苗放流を基本とするが、増殖量の一部を産卵床造成「382尾/㎡」により換えることができる。今後、効果を検証しながら、より効果的な方法を検討する。

(6) わかさぎ

わかさぎ資源の低迷は、近年の夏の高水温が影響している可能性が高く、現時点で放流量を増やしても夏場に水温が異常に上昇すれば減少してしまうため、当面の間、産卵床造成による増殖を行い、資源の維持・増大を図る。

産卵床の造成に当たっては、効果が期待される流入河川を中心に集中的な産卵床造成を行う。

(7) しらうお、えび

産卵床造成を基本とする。

(8) ぼら、すずき

天然遡上を支援するための障害物除去を基本とする。

2 増殖規模

漁場	魚種	増殖指針量	備考
千代川	あゆ	38万尾～391万尾	増殖量の一部を産卵場造成により換えることができる。汲み上げ放流は、下限に届かない場合のみ含める。
	溪流魚	7万3千～41万3千尾	増殖量の一部を産卵場造成、親魚放流により換えることができる。
	こい	—	KHV病まん延防止対策として、増殖を控える。
天神川	あゆ	8万尾～60万尾	増殖量の一部を産卵場造成により換えることができる。汲み上げ放流は、下限に届かない場合のみ含める。
	溪流魚	3万1千尾～17万7千尾	増殖量の一部を産卵場造成、親魚放流により換えることができる。
	こい	—	KHV病まん延防止対策として、増殖を控える。
日野川	あゆ	19万尾～322万尾	増殖量の一部を産卵場造成により換えることができる。汲み上げ放流は、下限に届かない場合のみ含める。
	溪流魚	7万6千尾～43万尾	増殖量の一部を産卵場造成、親魚放流により換えることができる。
	こい	—	KHV病まん延防止対策として、増殖を控える。
	うなぎ	40kg	稚魚の調達が年々困難になってきており、稚魚の価格の高騰などによる漁協の経営の圧迫なども懸念されることから、平成24年度の実績を維持。
湖山池	こい	—	KHV病まん延防止対策として、増殖を控える。
	ふな	産卵床造成：4か所	湖山池は、塩分導入により池内の環境が変化しつつあることから、指針量は積算せず、効果を検証しつつ、平成24年度の実績を維持する。
	うなぎ	30kg	〃
	わかさぎ	産卵床造成	近年、放流用卵の調達が困難であること、わかさぎ資源の低迷は、近年の夏の高水温が影響している可能性が高く、放流しても夏場に水温が異常に上昇すれば効果がない可能性が高いため、当面の間、放流は見合わせ、産卵床造成により増殖を行う。また、湖山池は、塩分導入により池内の環境が変化しつつあることから、指針量は積算しない。
	しらうお	産卵床造成：600㎡	湖山池は、塩分導入により池内の環境が変化しつつあることから、指針量は積算せず、効果を検証しつつ、平成24年度の実績を維持する。
	えび	産卵床造成：2,000㎡	〃
東郷池	こい	—	KHV病まん延防止対策として、増殖を控える。
	ふな	3万尾以上	増殖量の一部を産卵床造成により換えることができる。 (効果を検証しつつ、産卵場造成の効果が高ければ、放流から産卵床の造成に移行)
	うなぎ	50kg	稚魚の調達が年々困難になってきており、稚魚の価格の高騰などによる漁協の経営の圧迫なども懸念されることから、平成24年度の実績を維持。
	わかさぎ	産卵床造成：150㎡以上	わかさぎ資源の低迷は、近年の夏の高水温が影響している可能性が高く、放流しても夏場に水温が異常に上昇すれば効果がない可能性が高いため、当面の間、放流は見合わせ、産卵床造成により増殖を行う。
	しらうお	産卵床造成：400㎡以上	
	えび	産卵床造成：1,000㎡以上	
	ぼらすずき	天然遡上を支援(障害物除去)：1回以上	ぼらの遡上時期…11月～4月 すずきの遡上時期…3月～4月